

3月12日(水) KUZUHA MALL 南館 ヒカリノモール内に
京阪電車を、見て、知って、体感できる“SANZEN-HIROBA”がオープン!

～ライブ感あふれる京阪電車初のミュージアムゾーン～

京阪電気鉄道株式会社(本社:大阪市中央区、社長:加藤好文)、株式会社京阪流通システムズ(本社:大阪市中央区、社長:上野正哉)では、大阪府下最大級のショッピングセンターに進化し、3月12日(水)にグランドオープンする「KUZUHA MALL」内に、ライブ感あふれる京阪電車初のミュージアムゾーン「SANZEN-HIROBA」を展開します。今回、その内容について、詳細が決定しましたので、お知らせいたします。

「SANZEN-HIROBA」は、お子さまから大人の方まで「京阪電車を、見て、知って、体感できる」ゾーンとして、KUZUHA MALL「南館 ヒカリノモール」1階に誕生します。昨年3月末に引退した旧3000系特急用車両(テレビカー3505号車)の「デジタル動態保存」をはじめ、京阪電車のDNAを思う存分体感できる「レイルゾーン」と、ステージや大型ビジョンを活用して各種イベントを開催する「イベントゾーン」とで構成されます。

「レイルゾーン」では、テレビカーのデジタル動態保存の他に、運転シミュレーターやジオラマ、全線全駅や歴史を紹介するパネルなどを設置し、京阪電車としては、史上初の常設ミュージアムとなります。「イベントゾーン」では、お子さま向けイベントからファッションショー、音楽ライブなど、大人の方も楽しみいただける各種催事を実施いたします。

昭和47年(1972年)に開業した初代「くずはモール街」においても、放射状に広がるモールの中心部に「汽車のひろば(SLデゴイチ)」と「水上ステージ」を配置し、お子さまから大人の方までたくさんのお客さまが集い、心通い合う場所として好評を博しました。これらのDNAを継承・進化させ、今回の増床・リニューアルのコンセプト「潤うまち、彩るくらし、輝くわたし」を具現化したのが、この「SANZEN-HIROBA」です。商業施設の中のミュージアムとして、比類ないこの場所で「京阪電車らしさ」「KUZUHA MALLらしさ」を存分に体感していただき、一人でも多くの方に京阪ファンとなっていただくことを願っております。

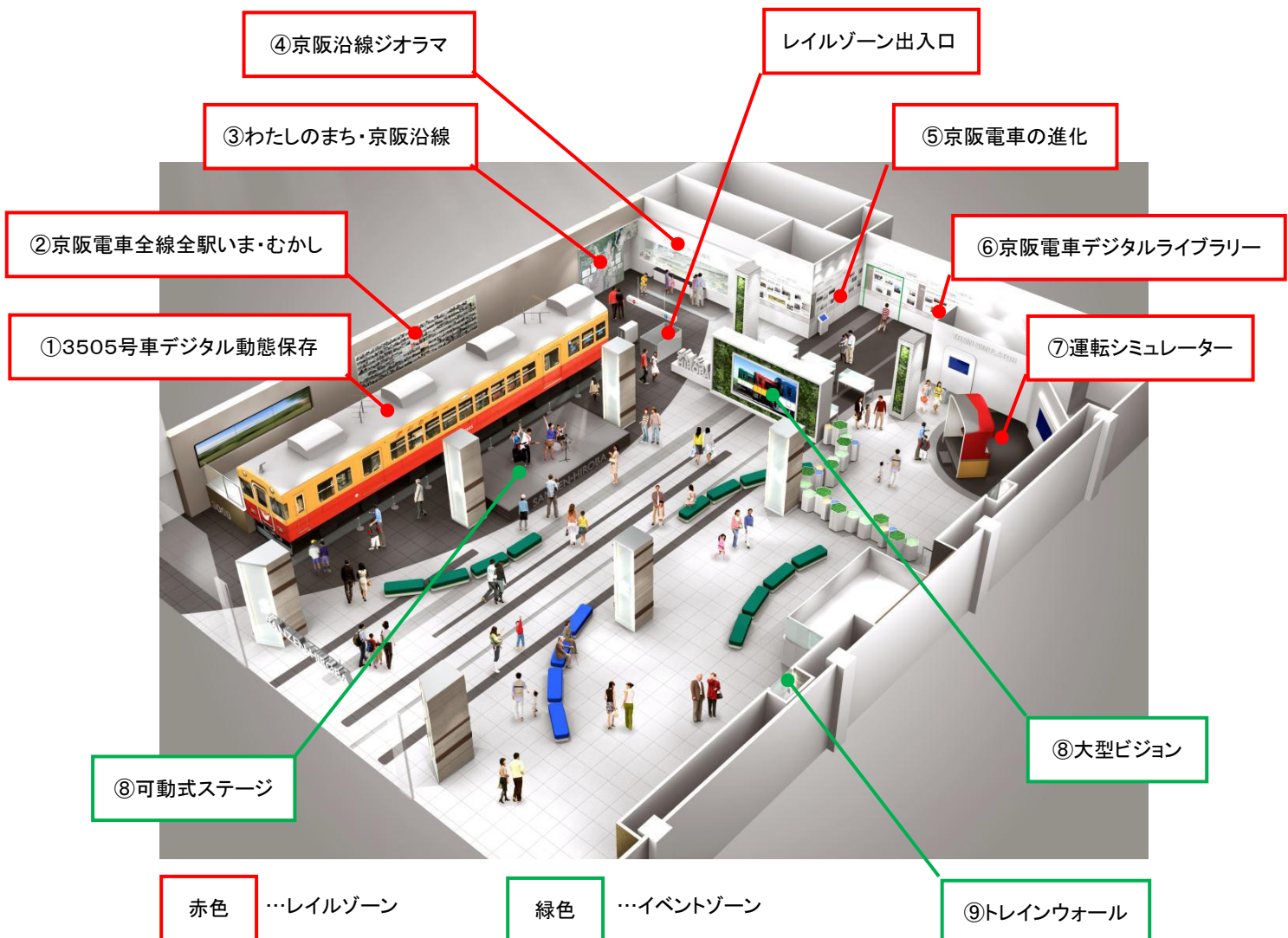
詳細は別紙のとおりです。



SANZEN-HIROBA

<施設詳細>

1. 名 称 SANZEN-HIROBA（さんぜんひろば）
※「3000系」および「ヒカリノモール→燦然と輝く」から命名。
2. 所 在 地 大阪府枚方市楠葉花園町10-85
KUZUHA MALL 南館 ヒカリノモール1階
3. オープン 平成26年3月12日（水） 10:00
4. 規 模 約960㎡
5. 営業時間 10:00～21:00 ※年中無休
（南館 ヒカリノモール物販店舗と同じ）
6. 入 場 料 無 料
※運転シミュレーターやジオラマ運転など、施設内に別途料金が発生するコンテンツがあります。
7. レイアウト



8. コンテンツ

【レイルゾーン】

- テレビカーの「デジタル動態保存」や8000系特急用車両の「運転シミュレーター」でリアルな乗車体験や運転体験が可能。京阪電車の世界を存分にお楽しみいただけます。
- ジオラマや各種画像、数々の「日本初」を紹介するパネルを通して、沿線の魅力や京阪電車の歴史、創業期からの「進取の気風」のDNAを感じ取っていただけます。
- ジオラマ、その他コンテンツに「京阪あるある」「京阪トリビア」を仕込んでいます。

①テレビカー3505号車デジタル動態保存

初代くずはモール街と同じ昭和47年（1972年）にデビューし、昨年3月末の引退まで特急用車両として京阪間を走り続けてきた「旧3000系」の先頭車（3505号車）が、デビュー当時の「テレビカー」として復活します。車内へのテレビ設置・放映のほか、シートモケットや連結面の内装、さらに外観の一部や塗装をデビュー当時の姿にできるだけ復元し、長年に渡り看板列車として京阪間を颯爽と走り抜けた往年の面影を後世に伝えます。

また、展示にあたっては、デジタル技術の粋を集めた、世界に例を見ない「デジタル動態保存」を実現。「テレビカー」がまるで現役車両のように走り続けます。運転シミュレーター機能を備えており、運転台・車掌台では、イベント的に運転体験や車掌体験をお楽しみいただくことができます。なお、車内へは併設のプラットホームから常時ご自由にお入りいただくことが可能です。

※デジタル動態保存…「展示車両は動かないものの、運転操作に合わせて画像や走行音が流れ、実際に線路上を走行しているかのようにリアルな運転や乗車体験が楽しめる」という仕組み。

【テレビカー3505号車デジタル動態保存】

運転体験・車掌体験 ※5月上旬から開始予定	有料（料金未定）
車内見学	無料

※SANZEN-HIROBA内の混雑が予想されるため、5月上旬までは、係員によるデモンストラクション運転を行います。運転体験・車掌体験の受付は5月上旬から開始の予定です。各種体験の料金や受付方法は、KUZUHA MALLのホームページ等で追ってご案内いたします。

※混雑時には、車内見学を中止することもあります。



②京阪電車全線全駅いま・むかし

京阪線および大津線全線の全89駅の現在と昔の写真をプラットホーム上の壁面に展示します。路線全体で線的にご覧いただくことで、各駅の歴史だけでなく、沿線の移り変わりを感じ取っていただくことができます。



③わたしのまち・京阪沿線

滋賀・京都・大阪の京阪沿線の広がりや、壁面に設置した衛星画像のパネルで俯瞰することができます。嵐電や叡山電車などグループ会社路線も表示しており、琵琶湖・洛北から大阪湾まで、淀川左岸のまちをつなぐ大動脈の全景を一望していただけます。

また、大阪城や京都競馬場、京都御所など主要な施設はもちろん、道路や学校まで識別できる程度の高解像度の写真を使用していますので、さまざまな施設やお住まいの街を楽しみながら探していただくこともできます。



④京阪沿線ジオラマ

大阪から京都・滋賀まで京阪沿線の豊富な魅力が凝縮された「京阪沿線ジオラマ」が登場。中央には懐かしい初代「くずはモール街」を再現し、大阪城やひらかたパーク、京都の神社仏閣、そして四季折々の祭など、京阪沿線の見どころの中を京阪電車のHOゲージ鉄道模型が走行します。また、ひらかたパークと京都の祭の行列は、からくり仕掛けで可動します。

【京阪沿線ジオラマ 鉄道模型運転 ご利用料金】

1回（約3分）	200円
---------	------

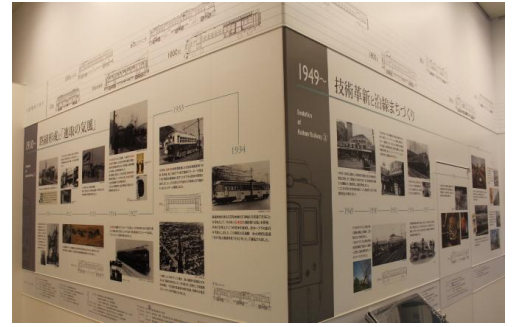
※運転可能な鉄道模型は、上り・下りの2列車です。

※「ひらかたパーク」「京都の祭行列」のからくり操作は無料です。



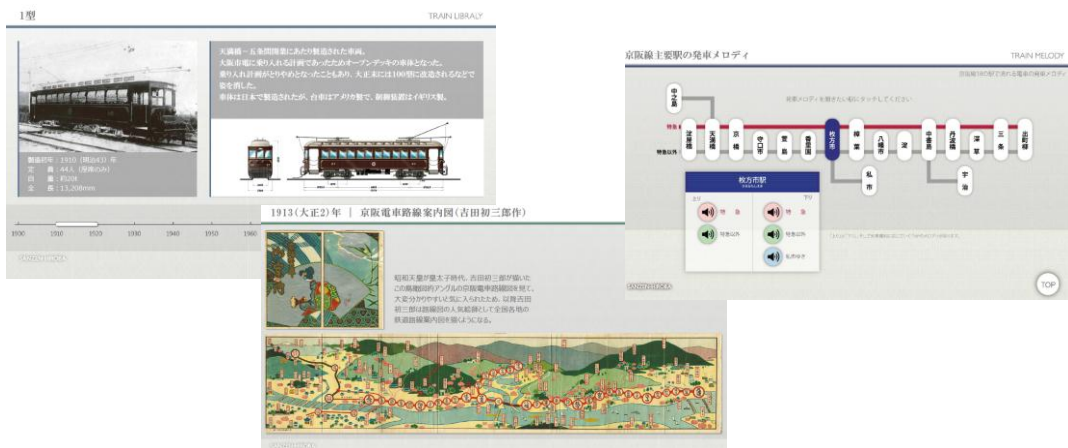
⑤京阪電車の進化

壁面に設置したパネルで、京阪電車の開業から現在にいたるまでの歴史を、「進化」という観点で紹介します。特に、「日本初」の技術やサービスなど創業期からの「進取の気風」をDNAとする京阪電車の進化の過程をご覧ください。



⑥京阪電車デジタルライブラリー

「歴代の車両」「京阪線の駅発車メロディ」「路線案内図の変遷」をタッチパネル式のモニターで紹介します。これまであまり公開されることのなかった京阪電車の数々の貴重な資料をデジタル画像やサウンドでお楽しみいただけます。



⑦運転シミュレーター

8000系特急車両の先頭部モックアップに設置した実車の運転台で、京阪電車の運転体験をお楽しみいただけます。運転台からの映像は今回のために新たに撮影。子供から大人まで運転士になった気分で実車さながらのリアルな運転操作をお楽しみいただけます。

さらに、5月上旬からは通勤用車両2600系の運転シミュレーターを増設する予定です。運転台とモニターが一体となった簡易型ですが、ハンドル類は実車のものをそのまま使用しており、8000系と同様のリアルな映像で運転体験をお楽しみいただけます。



【運転シミュレーター ご利用料金】

8000系	1回（約5分）	300円	※抽選制
2600系 ※5月上旬に登場予定	1回（約5分）	300円	※抽選制

※運転体験区間は混雑状況や日時により異なります。運転体験区間の指定はできません。

【運転シミュレーター 抽選時間・ご利用時間帯(予定)】

抽選時間	ご利用時間帯
① 10:00	10:00～12:00
② 11:50	12:00～14:00
③ 13:50	14:00～16:00
④ 15:50	16:00～18:00
⑤ 17:50	18:00～20:40

※抽選はSANZEN-HIROBA内で行います。

※早くからお並びいただいても、抽選結果には反映されません。

※混雑状況により、上記内容を急遽変更する場合があります。

【イベントゾーン】

- 運転シミュレーター映像も映し出せる大型マルチビジョンや可動式ステージを活用して、お子さまから大人の方まで楽しめる多種多様なイベントを展開します。
- 壁面の「トレインウォール」は、懐かしいヘッドマーク類や京阪最古のレールなど、これまで公開することなく保管されていた貴重な資料の宝庫です。
- ゾーン内壁面各所に京阪電車にまつわる「トリビアバー」を設置しています。

⑧大型ビジョン・可動式ステージ

SANZEN-HIROBAに入ると、正面には55インチ×9面のマルチビジョンが目に入ります。館内の案内や映画の宣伝などさまざまな情報を発信するほか、イベント開催時には、演出の媒体としても活用できます。さらには、運転シミュレーターの画像を映し出すことも可能で、SANZEN-HIROBA内で楽しい時間をお過ごしいただけるよう、さまざまなコンテンツをご提供いたします。また、イベントの形態に合わせて、自由にレイアウトできる可動式のステージも用意しており、多種多様なイベントに対応が可能です。



⑨トレインウォール

イベントゾーン内の壁面には、旧3000系特急車両がデビューした頃のダイヤグラムの一部を、車両の設計図とともに一面にデザイン。また、壁面の柱付近には、過去に使用していたヘッドマークや開業時から使用してきた歴代のレールをディスプレイするコーナーを設置しています。

ヘッドマークコーナーでは、まだ車両に先行表示器がなかった時代に掲出していた「行先方向板」や京阪特急のシンボル「鳩マーク」、さまざまなイベント列車や「ひらかた大菊人形」開催時に使用した「副標」などを順次入れ替えて展示します。



また、レールコーナーでは、開業当時に使用していた、明治31年（1898年）アメリカ「イリノイ製鋼」社製の京阪最古のレールから現在使用しているものまで、歴代レールの実物を展示し、大動脈の輸送を支えてきたレールの変遷を紹介します。開業時の併用軌道区間に使用していたレールなど、珍しいレールの断面もご覧いただけます。



【オープン特別イベント】

オープン特別イベントとして、3月15日（土）・16日（日）の2日間、それぞれ午前と午後に各1回ずつ「サプライズ・ショー」を開催します（各回30分程度）。

※時間・内容は非公開とさせていただきます。

また、混雑状況によっては急遽中止することがあります。

また、今後3～4月にかけて、音楽ライブやひらかたパークのPRなどを予定しています。詳しくは、決まり次第、KUZUHA MALLのホームページ、公式Twitterなどで、ご案内します。（混雑状況や内容により、事前に予告なく実施する場合があります。）

9. ロゴマーク

クスノキをモチーフとしていた初代「くずはモール街」のロゴマークをベースにデザイン。中央の木の幹に漢数字の「三」を加えることで、「花」「緑」「太陽」の三要素（※）を象徴していた3つの丸い葉と合わせて「三〇〇〇」＝「SANZEN」を表現。「三」を付け加えた幹の部分は、線路もイメージしています。

※「花」「緑」「太陽」の三要素

くずはローズタウンのコンセプト「花と緑と太陽のまち」と連動。初代「くずはモール街」には「花のモール」「緑のモール」「太陽のモール」があり、今回のグランドオープンでは、この名称を継承・進化する形で「ハナノモール」「ミドリノモール」「ヒカリノモール」のゾーン名を採用しています。



SANZEN-HIROBA



SANZEN HIROBA



▲「くずはモール街」入口に掲げられていたロゴマーク